

豚舎構造が肉豚の産肉性に及ぼす影響について

佐藤 勲・重永 錦二・旧杵直孝・長友 万太郎

(宮崎県総合農試肉畜支場)

SATO, I., SHIGENAGA, K., USUKI, N. and NAGATOMO, M.

The Effect of a Piggery Structure on Pork Production.

目 的

夏季における豚舎構造並に1頭当り床面積のちがいおよび、水浴場の有無と肉豚の産肉性の関係を知るために行なった。

試験材料および方法

開放式豚舎(33m²)と、半閉鎖式豚舎(35m²)デンマーク式改良豚舎(52.8m²)について41.6月から8月の、それぞれ11日から20日迄(午前10時~11時迄)室内気候と豚の体温及び呼吸数を測定した。測定器具は、棒状寒温計、グローブサーモメーター、カタ寒暖計、MCL紫外計、棒状体温計を使用し各

豚房の中央部で、床上30cmの部位をそれぞれ2回づつ測定した。また、体温及び呼吸数は各区4頭づつ計測して平均した。

産肉性は、開放式豚舎で密飼水浴区、密飼区、普通水浴区、普通区を設け更に半閉鎖式豚舎区を加えた5区により比較した。密飼区は、1m²当り1.5頭を収容し、普通区は、1m²当り1頭を収容した。また、水浴場は、3.6m²の深さ20cmのものを設け、飼料は、産肉能力検定飼料をランドレース基準により与えた。

試験成績および考察

第1表 各豚舎の室内気候と肉豚の産肉性

区 分	項目	室内気温 °C	室内湿度 %	輻射熱	気 動 % _{60c}	紫 外 線	感覚温度 * °C	体 温 °C	呼吸数 毎分	日平均 増体重	飼料要 求率%
開放式豚舎区		26.2±3.16	81.7±0.59	0.6±0.59	1.08	2.32±1.26	22.05±3.18	39.41	29.6	583 ^g	4.18
半閉鎖式豚舎区		27.1±2.92	79.1±9.56	0.5±0.38	0.38	0.61±0.46	24.33±2.11	39.45	28.5	575	4.19
デンマーク改良式豚舎区		26.4±3.15	81.9±9.04	0.8±0.79	0.17	1.84±0.99	24.76±2.47	39.50	29.0	—	—

*は、人に使われているヤグロ-の感覚温度により、参考までにあわした。

士は、標準偏差

この結果から、半閉鎖式豚舎が、室内気温で約1℃高く、湿度、輻射熱、気動、紫外線は少ない。また、開放式豚舎は、気動および紫外線が多く、感覚温度が約2℃低かったが、体温、呼吸数および産肉性の差は極めて少なかった。

収容密度については、1日平均増体重で、密飼区

が、530g、普通区が583gで後者が9%すぐれていた。しかし、体温及び呼吸数においては、殆んど差が認められなかった。

水浴場を設けることにより、呼吸数の減少と産肉性の向上が認められ、とくに密飼区にその効果があった。

第2表 水浴 効果 の 比 較

区 分	項目	体 温 °C	呼 吸 数 毎分	1日平均 増 体 重 g	飼料要求率	摘 要
普通	水 浴 区	39.44	27.9	603	3.98	8 頭 平 均
	対 照 区	39.41	29.6	583	4.18	〃 〃
密飼	水 浴 区	39.42	27.7	567	4.18	12 頭 平 均
	対 照 区	39.43	29.5	530	4.44	〃 〃